

# 2016 (平成 28 年) 川南町ハザードマップ

### 凡例

	避難所
	避難地
	消防組合・分遣所
	病院
	地すべり危険箇所
	土石流危険渓流
	急傾斜地崩壊危険箇所
	土砂災害警戒区域(レッドゾーン)
	土砂災害警戒区域(イエローゾーン)
	市町村界
	高速自動車道
	国道
	主要地方道
	県道

標高色	標高
	0~5m
	5~10m
	10~15m
	15~20m

川南町公民館 48.3m  
↑ 施設名 ↑ 標高

※地図上の標高は、国土院発行の2万5千分の1地形図に表示したものであり、実際とは誤差を生じる場合があります。

## 災害用伝言サービス

### 災害用伝言ダイヤル(171)

災害用伝言ダイヤルとは、大規模災害(震度6弱以上の地震等)が発生した際に、家族等の安否確認を行うためのシステムです。

大規模災害時は、電話回線が非常に混み合い、なかなか連絡が取れない状況に陥ります。そんな時、この災害用伝言ダイヤル「171」を利用して、自分の安否を伝言として残し、速くに住む家族等がその伝言を聞いて安否確認を行います。詳しくは、上記災害用伝言ダイヤル(171)を確認してください。

### 緊急速報メール

NTTドコモ、au、ソフトバンクなどで、気象庁が配信する「緊急地震速報」や「津波警報」、国・地方公共団体が配信する「災害・避難情報」などを、配信するサービスを行っています。詳しくは各携帯電話会社にお問い合わせ下さい。

### 災害用伝言板

上記の災害用伝言ダイヤルと同様、大規模災害時の電波の混み合った状況に陥った場合、パソコンや携帯電話を使用し、安否情報を伝言板で共有するシステムです。

災害が発生すると、安否確認や消防、警察等への連絡が一斉に電話を使用するために、通信が集中し電話が大変な状況になります。このため、自分の無事を連絡したり、家族や親戚、知人等の安否を一刻も早く確認したくても、なかなか連絡がつかないという状況が起ります。こうした状況を解消するため、NTTドコモグループ、au、KDDIグループ、ソフトバンクモバイル、ウィルコムにおいて、被災地域にいる方が自身の安否情報を伝えることのできる「災害用伝言板サービス」を提供しています。

災害用伝言板には、下記の種類があります。

※災害用伝言サービスのお問い合わせはこちらです。  
TCA 社団法人 電気通信事業者協会

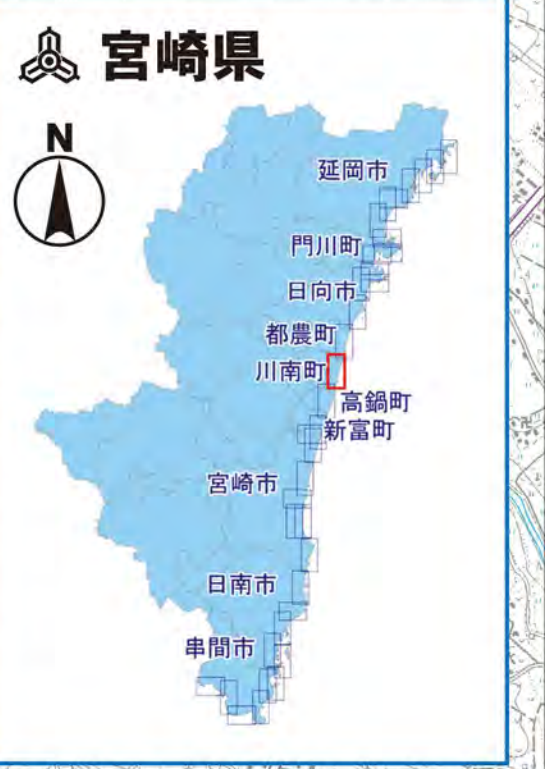
- 災害用メールボックス伝言板(web171)
- ケータイ災害用伝言板(au)
- ケータイ災害用伝言板(NTTドコモ)
- ケータイ災害用伝言板(イーモバイル)
- ケータイ災害用伝言板(au)
- ケータイ災害用伝言板(ソフトバンク)

### 避難所施設

地区	避難施設名	標高	番号	
川南地区	川南町公民館	39.7m	1	
	川南町農村環境改善センター	39.7m	2	
	川南別館	64.0m	3	
	野田公民館	81.0m	4	
	中央保育所	37.6m	5	
	川南小学校	64.0m	6	
	唐瀬原中学校	65.0m	7	
	山本別館	112.0m	8	
	込の公民館	127.0m	9	
	掛迫公民館	194.0m	10	
山本地区	登口公民館	98.0m	11	
	上竹浜公民館	85.0m	12	
	山本小学校	111.0m	13	
	東別館	46.7m	14	
	孫谷公民館	34.8m	15	
	大久保地区多目的集会所	41.3m	16	
	東小学校	49.0m	17	
	通山別館	58.0m	18	
	番野地公民館	62.0m	19	
	番野地保育所	62.3m	20	
通山地区	通山小学校	58.0m	21	
	国光原中学校	68.3m	22	
	多賀別館	77.0m	23	
	白旗公民館	74.0m	24	
	大内公民館	145.0m	25	
	第22地区公民館	75.5m	26	
	鬼ヶ久保公民館	52.4m	27	
	多賀小学校	75.0m	28	
	東地区	孫谷公民館	34.8m	15
		大久保地区多目的集会所	41.3m	16
東小学校		49.0m	17	
通山別館		58.0m	18	
番野地公民館		62.0m	19	
番野地保育所		62.3m	20	
通山小学校		58.0m	21	
国光原中学校		68.3m	22	
多賀別館		77.0m	23	
白旗公民館		74.0m	24	
多賀地区	大内公民館	145.0m	25	
	第22地区公民館	75.5m	26	
	鬼ヶ久保公民館	52.4m	27	
	多賀小学校	75.0m	28	

### 緊急連絡先

緊急連絡先	電話番号	番号
川南町役場	27-8001	A
東児湯消防組合	22-1360	B
東児湯消防組合 川南分遣所	27-0578	C
高鍋警察署	22-0110	D
高鍋警察署 川南交番	27-0335	D
児湯農林振興局	22-1362	—
高鍋土木事務所	23-0001	—
九州電力 高鍋営業所	0120-966-703	—
警察(事件事故の急報)	110	—
消防救急(火事・救助・救急車)	119	—
海上保安庁	118	—
NTT西日本(問合せ)	116	—
災害伝言ダイヤル	171	—



### 避難地

避難地名	番号
川南小学校グラウンド	a
山本小学校グラウンド	b
東小学校グラウンド	c
通山小学校グラウンド	d
多賀小学校グラウンド	e
唐瀬原中学校グラウンド	f
国光原中学校グラウンド	g
川南町運動公園	h
山本農村公園	i
十文字農村公園	j
東地区運動公園	k
通山農村公園	l

### 土砂災害対策

土砂災害の発生時には、こんな現象が起ることもあります。

- 雨が降り続けていると、川の水位が上がる。
- 斜面から水が湧き出す。
- 川の流れが滞り、濁水が溢れ始める。
- 山鳴りがする。
- 地面がひび割れる。
- 沢や戸の水が濁る。
- 小石がハラハラ落ちてくる。

### 土石流危険渓流

- 渓流の勾配が急である。
- 渓流に大きな石がごろごろしている。
- たくさんの土砂が堆積している。
- 上流が山崩れなどで荒れている。
- 過去に土石流があった。

### 地すべり危険箇所

- 過去に地すべりがあったところで、今も少しずつ動いている。
- わき水や地下水が豊富である。
- 過去に山崩れがあった。
- 断層があるところやもろく崩れやすい岩石がある。
- 火山作用あるいは温泉の作用で粘土化した土がある。

### 急傾斜地崩壊危険箇所

- 山の傾斜に亀裂やわき水がある。
- 岩石がもろく崩れやすい地質である。
- 過去に山崩れがあった。
- 山崩れがあった場所に隣り合っている。
- 急斜面で、軟弱な地盤がある。
- 水の集まりやすい斜面地形である。
- とくときき落石がある。

### 宮崎県津波浸水想定 市町別 地域海岸⑤ (川南町1/1)

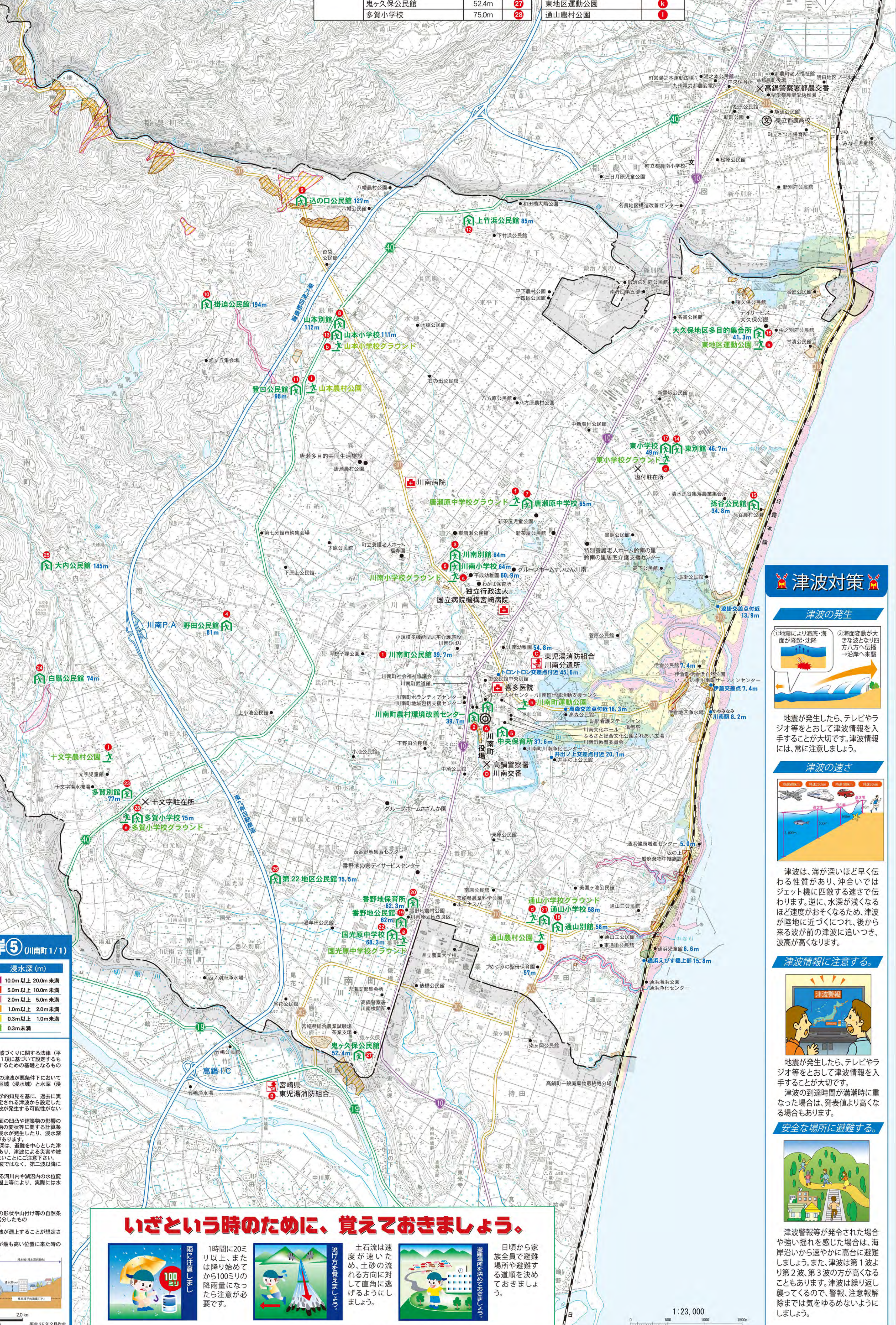
凡例

浸水深(m)	色
10.0m以上 20.0m未満	赤
5.0m以上 10.0m未満	オレンジ
2.0m以上 5.0m未満	黄
1.0m以上 2.0m未満	緑
0.3m以上 1.0m未満	青
0.3m未満	白

【留意事項】  
○「浸水想定」は、津波防災地域づくりに関する法律(平成23年法律第123号)第8条第1項に基づいて設定されたもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものである。  
○「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が襲来する条件下で発生した場合に想定される浸水区域(浸水域)と水深(浸水深)を示したものである。  
○最大クラスの津波とは、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものはあり得ない。  
○浸水域や浸水深は、局所的な地形の凹凸や建築物の影響のほか、地盤による地盤沈下や建築物の取付等に関する計算条件との差異により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなる可能性がある。  
○「津波浸水想定」の浸水域や浸水深は、津波を中心とした津波防災対策を定めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではないことにご注意下さい。  
○浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以上に最大となる場所があります。  
○「津波浸水想定」では、津波による河川内や湖沼内の水位変化を示していませんが、津波の遡上等により、実際には水位が変化することがあります。

【用語の解説】  
(1) 海岸の区分について  
○地域海岸：宮崎沿岸を海岸線の形状や山付け等の自然条件、浸水想定浸水域の範囲から区分したものである。  
(2) 浸水想定について(図1参照)  
○浸水域：海岸線から陸域に津波が遡上することが想定される領域。  
○浸水深：陸上の各地点で水面が最も高い位置に来た時の海面から水面までの高さ

図1 浸水想定用語



### 津波対策

#### 津波の発生

① 地震により海底-海面の隆起・沈降  
② 海面変動が大きな波となり四方八方へ広がり沿岸へ襲来

地震が発生したら、テレビやラジオ等をおして津波情報入手することが大切です。津波情報には、常に注意しましょう。

#### 津波の速さ

津波は、海が深いほど早く伝わる性質があり、沖合ではジェット機に匹敵する速さで伝わります。逆に、水深が浅くなるほど速度がおそくなるため、津波が陸地に近づくと、陸地から来る波が前の津波に追いつき、波高が高くなります。

#### 津波情報に注意する。

地震が発生したら、テレビやラジオ等をおして津波情報入手することが大切です。津波の到達時間が満潮時に重なった場合は、発表値より高くなる場合もあります。

安全な場所に避難する。

津波警報等が発令された場合や強い揺れを感じた場合は、海岸沿いや速やかに高台に避難しましょう。また、津波は第1波より第2波、第3波の方が高くなることもあります。津波は繰り返して襲ってくるので、警報、注意解除までは気をゆるめないようにしましょう。

### いざという時のために、覚えておきましょう。

1時間に20ミリ以上、または降り始めてから100ミリの降雨量になったら注意が必要です。

土石流は速度が速いため、土砂の流れる方向に対して直角に逃げるようにしましょう。

日頃から家族全員で避難場所や避難経路を決めておきましょう。